

ミュージックビジネス学科

1年次生

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ミュージックセオリー I
担当講師名	富士崎 仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社で制作 A&R、宣伝担当としてアーティストを担当するなど音楽業界での実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は PC を使って音楽理論と音源制作過程を学ぶ演習形式の授業です。音楽制作ソフトウェア「Cubase」を使用して、楽譜を読み、音符を打ち込んで楽曲にする作業からファイルへの変換を行い、選曲からアルバム作りまでの過程を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽理論をもとに、音源制作過程を学び、アルバム制作ができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション（授業概要の説明）
- ② 音楽制作者について（パソコンと音楽制作の現状）
- ③ 洋楽と邦楽制作の違い（音楽制作の進め方）
- ④ デスクトップミュージック（Cubase の使い方と楽譜の基本）
- ⑤ イヤートレーニングと楽器について（音楽的に耳を鍛える 楽器の名前とそれぞれのサウンドを知る）
- ⑥ 制作作業（MIDI による入力方法とメジャー・コードについて）
- ⑦ 課題曲提出（3つのコードを使ったヒット曲を課題曲にして制作し提出）

#### 中間試験評価方法・評価基準

クォーター末の授業において作成したデータを提出、授業の理解度を確認します。  
平常点 30% 授業態度 40% 試験課題 30%

#### 授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ロックンロール (3つのコードで作られるロックンロールの楽曲制作)
- ⑨ メジャー・コードとマイナー・コード (明るい響きと暗い響きの違い)
- ⑩ ギターとキーボード (楽器を選択してギターパートとキーボードパートを入力)
- ⑪ ベース (ベースを選択してベースパートを入力)
- ⑫ ドラム (ドラムセットを選択してドラムパートを入力)
- ⑬ 音声ファイルの種類 (音声ファイルの知識 圧縮、非圧縮のファイルの違い(MP3 と WAV など))
- ⑭トラックダウンと書き出し (作った曲のトラックごとに音量調整してMP3ファイルで書き出す)
- ⑮ 学期末試験 (長く音楽活動が続けることの重要性の解説と課題曲制作)

#### 期末試験評価方法・評価基準

授業において作成したデータは毎回提出の上授業の理解度を確認します。  
平常点 30% 授業態度 40% 試験課題 30%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ミュージックセオリーⅡ
担当講師名	富士崎 仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社で制作 A&R、宣伝担当としてアーティストを担当するなど音楽業界での実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は PC を使って音楽理論と音源制作過程を学ぶ演習形式の授業です。音楽制作ソフトウェア「Cubase」を使用して、楽譜を読み、音符を打ち込んで楽曲にする作業からファイルへの変換を行い、選曲からアルバム作りまでの過程を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽理論をもとに、音源制作過程を学び、アルバム制作ができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① カノンとヒット曲の関係①（カノンと JPOP のヒット曲についての関連性について・カノン制作）
- ② カノンとヒット曲の関係②（カノンクイズに挑戦）
- ③ カノンとヒット曲の関係③（答え合わせをした後に 1 曲をフルサイズで制作）
- ④ アルバムができるまで（制作前の作業について 新人発掘と契約について）
- ⑤ レコーディング（契約からレコーディング作業について）
- ⑥ マスタリング（音源制作の仕上げ・マスタリングについて）
- ⑦ 課題曲提出（洋楽ヒット曲の音源を制作して提出）

#### 中間試験評価方法・評価基準

授業において作成したデータは毎回提出しての上授業の理解度を確認します。

平常点 30% 授業態度 40% 試験課題 30%

#### 授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ アルバム資料と宣伝 (実際のアルバム資料を見てアルバムやジャケットに必要な文字要素などを確認)
- ⑨ クリスマスソングとカラオケ (クリスマスソングとそのカラオケを制作)
- ⑩ ヒットがすべて (各自の年間ベスト 10 とヒット曲について)
- ⑪ カバー曲のヒット (カバー曲の企画とオリジナル曲の比較とヒットについての解説)
- ⑫ CM タイアップと CM 音源制作 (CM タイアップによるヒット曲の解説 それぞれの曲で一番聞いてもらいたい 15 秒を編集)
- ⑬ 音楽出版社 (音楽出版社の仕事と音作りについて 制作した楽曲の整理と確認)
- ⑭ アルバム制作 (オルゴールバージョンのアルバム企画制作)
- ⑮ アルバム制作 (制作した曲から選曲・曲順・タイトル・解説まで入力してカバーアルバムを完成)

#### 期末試験評価方法・評価基準

授業において作成したデータは毎回提出の上授業の理解度を確認します。

平常点 30% 授業態度 40% 試験課題 30%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ビジネスコンピュータ I
担当講師名	鈴木 薫
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はエンタメ専門の就職情報サイト「エンターズ」の企画運営を行い、コンピュータスキルをビジネスに生かす経験とノウハウを豊富に持ち合わせるウェブマーケティングのプロフェッショナルです。

#### 授業内容

この科目はエンターテインメント業界に求められるデジタルスキル獲得を目的とする演習形式の授業です。YouTube、Twitter、Instagram、TikTok を始めとする SNS を基礎から学び、インフルエンサーを事例に炎上・バズを理解して戦略的な運用ができるようデジタルマーケティング・デジタル配信を学修します。またウェブでのプレゼンテーションのノウハウを理解して、就職時にも役立つビジネスレベルのプレゼンスキルが身につくよう学修します。この科目単位の取得によって履歴書に掲載できる「エンターズ SNS マーケティングエキスパート（初級）修了証明書」を発行します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

YouTube、Twitter など SNS のインフルエンサーレベルでの戦略的なノウハウ、ウェブマーケティングスキルが身に付き、趣味ではなくビジネスで SNS を活用できる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① SNS の基礎知識：SNS で成功したアーティストから見るバズとマーケティング
- ② SNS1 YouTube：YouTube の強み、ユーザー特性の理解、運用方法、バズアイデア
- ③ SNS2 Twitter：Twitter の強み、ユーザー特性の理解、運用方法、バズアイデア
- ④ SNS3 Instagram：Instagram の強み、ユーザー特性の理解、運用方法、バズアイデア
- ⑤ SNS4 TikTok：TikTok の強み、ユーザー特性の理解、運用方法、バズアイデア
- ⑥ デジタル配信 1：音楽配信各サービスの違い、運用方法、ヒット・ファン獲得の研究

⑦ 期末試験 理解度テスト、アカウント作成／質疑応答

中間試験評価方法・評価基準

参加意識・受講態度に加え理解度の期末試験（アカウント作成含む）を評価します。

平常点：25% 受講態度：50% 期末試験：25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ デジタル配信 2：ライブ配信各サービスの違い、運用方法、ヒット・ファン獲得の研究
- ⑨ バズアイデアの出し方 1：ウェブ施策で考える各アイデア思考方法の紹介
- ⑩ 戦略的 SNS マーケティング 1：PDCA と KPI の理解
- ⑪ 戦略的 SNS マーケティング 2：TAPS、ペルソナの理解
- ⑫ 戦略的 SNS マーケティング 3：5W2H、経営資源の 5 視点、なぜなぜ分析の理解
- ⑬ 戦略的 SNS マーケティング 4：USP の理解、マーケティングのまとめ
- ⑭ ケーススタディ 1：メジャーバンドマン A をバズらせるには？ 出題編
- ⑮ リモートプレゼン 1：バンドマン A をバズらせるには？ みんなの回答編

期末試験評価方法・評価基準

参加意識・受講態度に加えプレゼン発表の内容・工夫を評価します。

平常点：25% 受講態度：50% プレゼン発表内容／工夫：25%

特記事項

各授業では、上記 1～15 のメインテーマ以外に「戦略的に SNS 投稿を行うためのトレーニング」「30 人の YouTuber / VTuber を徹底分析したヒットの要因」など各回の授業を通じて幅広いウェブの知識が、普段の生活の身近な例から身に付くよう授業内容を予定しています。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ビジネスコンピュータⅡ
担当講師名	鈴木 薫
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はエンタメ専門の就職情報サイト「エンターズ」の企画運営を行い、コンピュータスキルをビジネスに生かす経験とノウハウを豊富に持ち合わせるウェブマーケティングのプロフェッショナルです。

#### 授業内容

この科目は1年次専門科目に関連し、エンターテインメント業界に求められるデジタルスキル獲得を目的とする演習形式の授業です。YouTube、Twitter、Instagram、TikTokを始めとするSNSを基礎から学び、インフルエンサーを事例に炎上・バズを理解して戦略的な運用ができるようデジタルマーケティング・デジタル配信を学修します。またウェブでのプレゼンテーションのノウハウを理解して、就職時にも役立つビジネスレベルのプレゼンスキルが身につくよう学修します。この科目単位の取得によって履歴書に掲載できる「エンターズ SNS マーケティングエキスパート（初級）修了証明書」を発行します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

YouTube、Twitter など SNS のインフルエンサーレベルでの戦略的なノウハウ、ウェブマーケティングスキルが身に付き、趣味ではなくビジネスで SNS を活用できる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 炎上リスク：身近な事例から炎上リスクを理解、対策方法
- ② 情報リテラシー：セキュリティ基礎、メディアリテラシーの理解
- ③ 海外でのバズネタ：YouTube/Twitter、その他先進的バズアイデア紹介
- ④ バズアイデアの出し方2：ウェブ施策で考える各アイデア思考方法の紹介
- ⑤ ケーススタディ2：駆け出しアーティストBをバズらせるには？出題編
- ⑥ リモートプレゼン：駆け出しアーティストBをバズらせるには？みんなの回答編

- ⑦ チェックテスト：理解度テスト、アカウント運用状況／質疑応答

#### 中間試験評価方法・評価基準

参加意識・受講態度に加えプレゼン発表・工夫、期末試験（アカウント状況含む）を評価します。

平常点：25% 受講態度：50% 期末試験：25%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ロジカルコミュニケーション：論理的思考の考え方と身に付けるトレーニング
- ⑨ コピーライティング1：コピー作成基本、わかりやすい文章、伝わりやすい文章
- ⑩ コピーライティング2：構成と見出し、キャッチコピー、メールなどビジネス活用
- ⑪ ビジネススライド作成：プロに見せるための企画・提案スライドの作成
- ⑫ SNS画像の改善：プロフィール・サムネイル・アイキャッチ投稿画像のリアレンジ
- ⑬ リモートプレゼン最終：ライトニングトーク前半戦 みんなの運用状況発表
- ⑭ リモートプレゼン最終：ライトニングトーク後半戦 みんなの運用状況発表
- ⑮ 業界人オブザーブ講演：業界人による登壇とプレゼンのフィードバック

#### 期末試験評価方法・評価基準

参加意識・受講態度に加えプレゼン発表の内容・工夫を評価します。

平常点：25% 受講態度：50% プレゼン発表内容／工夫：25%

#### 特記事項

各授業では、上記1～15のメインテーマ以外に「戦略的にSNS投稿を行うためのトレーニング」「30人のYouTuber / VTuberを徹底分析したヒットの要因」など各回の授業を通じて幅広いウェブの知識が、普段の生活の身近な例から身に付くよう授業内容を予定しています。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	映像制作 I
担当講師名	山形栄治
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽番組にてディレクターを務め、独立後、映像、音楽制作会社を設立。

#### 授業内容

この科目は、1 年次専門科目に関連し、音楽エンタテインメントビジネスでの映像・動画の役割を理解して映像制作を学び、映像コンテンツ制作技術の獲得を目的とする演習形式の授業です。撮影機材の操作、「Adobe Premiere Pro」を使用した動画編集を学修します。

1 クォーター：Mac 基本操作、Premiere ソフト概要、撮影機材使用の基礎 2 クォーター：自己 PR 映像（※…成果物として残る作品）

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

映像制作の技術、周辺機材の操作・知識、構成台本制作の基礎を身につけた人材

#### 授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① Mac の基本操作（映像制作で使う Mac OS の基本的な操作方法を学ぶ）
- ② 映像作品企画立案（自己紹介動画制作をテーマに動画 PR 方法について学ぶ）
- ③ 絵コンテ、構成台本制作（準備段階の作成基礎を学ぶ）
- ④ 実習・カメラ撮影（撮影で使用するビデオカメラの設定、操作を学ぶ）
- ⑤ 実習・編集ソフト（編集ソフト Adobe Premiere Pro の概要の解説と実践）
- ⑥ 実習・編集ソフト（課題となる映像作品の制作、編集と個別指導）
- ⑦ 1 クォーター末テスト（動画制作に関する基礎知識についてのテスト）
- ⑧

#### 中間試験評価方法・評価基準

平常点：20%、授業態度：20%、テスト：60%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ 2クォーター課題 自己紹介動画制作準備1（自己紹介ビデオの企画書を制作）
- ⑩ 2クォーター課題 自己紹介動画制作準備2（絵コンテ、構成台本を制作）
- ⑪ 絵コンテ/撮影（絵コンテを完成させ撮影を開始）
- ⑫ 実習・撮影/編集1（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑬ 実習・撮影/編集2（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑭ 実習・撮影/編集3（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑮ 実習・撮影/編集4（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑯ 2クォーター課題 自己紹介動画完成（動画ファイル書き出し 課題の提出）

#### 期末試験評価方法・評価基準

2分30秒程度の映像作品を制作。企画・編集ならびに作品の完成度を見ます。

平常点：20%、授業態度：20%、提出物：60%

#### 特記事項

Macによる実習が多くなるため、授業時間や教室の有効活用が重要です。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	映像制作Ⅱ
担当講師名	山形栄治
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽番組にてディレクターを務め、独立後、映像、音楽制作会社を設立。

#### 授業内容

この科目は、音楽エンタテインメントビジネスでの映像・動画の役割を理解して映像制作を学び、映像コンテンツ制作技術の獲得を目的とする演習形式の授業です。撮影機材の操作、「Adobe Premiere Pro」を使用した動画編集を学修します。

3 クォーター：リリックビデオ※ 4 クォーター：アーティスト PR 映像制作※（※…成果物として残る作品）

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

映像制作の技術、周辺機材の操作・知識、構成台本製作の基礎を身につけた人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 3クォーター課題タイポグラフィ作成（各自好きな楽曲を選び文字を使い映像作品を制作）
- ② タイポグラフィ企画/絵コンテ（どんな世界観で文字を構成し映像作品制作するかを考え、企画書/絵コンテを制作）
- ③ 実習・編集1（文字の動かし方や映像効果の方法などを学ぶ）
- ④ 実習・編集2（課題となる映像作品の制作、編集と個別指導）
- ⑤ 実習・編集3（課題となる映像作品の制作、編集と個別指導）
- ⑥ 実習・編集4（課題となる映像作品の制作、編集と個別指導）
- ⑦ 3クォーター課題タイポグラフィ完成（課題提出、作品を試写）

#### 中間試験評価方法・評価基準

課題制作の過程、編集、作品の完成度を評価します。

平常点：20%、授業態度：20%、提出物：60%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 4クォーター課題アーティストPR動画制作（アーティストを選び番組企画、構成台本を制作）
- ⑨ 課題 企画/絵コンテ（番組企画、構成台本を制作）
- ⑩ 実習・撮影/編集1（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑪ 実習・撮影/編集2（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑫ 実習・撮影/編集3（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑬ 実習・撮影/編集4（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑭ 実習・撮影/編集5（課題となる映像作品の撮影、編集と個別指導）
- ⑮ 4クォーター課題アーティストPR動画完成（課題提出、完成作品の試写）

#### 期末試験評価方法・評価基準

課題制作の過程、編集、作品の完成度を評価します。

平常点：20%、授業態度：20%、提出物：60%

#### 特記事項

Macによる実習が多くなるため、授業時間や教室の有効活用が重要です。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	デザインツール基礎 I
担当講師名	古川早紀
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はレコード会社のデザイン部を経たフリーランスのグラフィックデザイナーとして、アーティストのジャケットや広告制作など、音楽産業での実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は1年次専門科目に関連し、幅広く対応できるデザインをPCで制作するスキル獲得を目的とする演習形式の授業です。「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」を使用してアプリケーション操作からデザイン制作全般を行う過程を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

PCでIllustratorとPhotoshopを使えるスキルの習得をして、CDジャケットやパンフレット制作に役立つ人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① Illustrator 基礎 1（アプリケーションについて／基本操作）
- ② Illustrator 基礎 2（基本図形の描き方と変形操作）
- ③ Illustrator 基礎 3（パスの描画と編集）
- ④ Illustrator 基礎 4（色の設定①）
- ⑤ Illustrator 基礎 5（文字の入力・設定①）
- ⑥ クォーター末課題 作品制作（1）（課題：ロゴマーク・他（仮）の制作）
- ⑦ クォーター末課題 作品制作（2）（課題：ロゴマーク・他（仮）の制作・完成・提出）

#### 中間試験評価方法・評価基準

課題制作時のアプリケーションを使用する積極的な姿勢や理解度・応用力、作品の表現力

や完成度などを総合的に評価します。出席率や授業態度も評価に含まれます。

平常点 15%、授業態度 15%、練習課題・クォーター末課題 70%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Illustrator 基礎 6（オブジェクトの編集とレイヤーの基本）
- ⑨ Illustrator 基礎 7（色の設定②／文字の入力・設定②）
- ⑩ Illustrator 基礎 8（便利な機能〈変形・合成・特殊効果〉）
- ⑪ Illustrator 基礎 9（Photoshop の基礎と連携／Illustrator で制作するデータの目的にあった仕上げ方について）
- ⑫ 中間課題 作品制作（1）（課題：カレンダー（仮）の制作）
- ⑬ 中間課題 作品制作（2）（課題：カレンダー（仮）の制作・完成・提出）
- ⑭ クォーター末課題 作品制作（1）（課題：フライヤー（仮）の制作）
- ⑮ クォーター末課題 作品制作（2）（課題：フライヤー（仮）の制作・完成・提出）

#### 期末試験評価方法・評価基準

課題制作時のアプリケーションを使用する積極的な姿勢や理解度・応用力、作品の表現力や完成度などを総合的に評価します。出席率や授業態度も評価に含まれます。

学期末の評価は1クォーターと2クォーターの平均点とします。

2クォーター：平常点 15%、授業態度 10%、中間・学期末課題 75%

#### 特記事項

演習や課題提出が多くなるため、授業時間や教室の有効活用が重要です。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	デザインツール基礎Ⅱ
担当講師名	古川早紀
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はレコード会社のデザイン部を経たフリーランスのグラフィックデザイナーとして、アーティストのジャケットや広告制作など、音楽産業での実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は1年次専門科目に関連し、幅広く対応できるデザインをPCで制作するスキル獲得を目的とする演習形式の授業です。「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」を使用してアプリケーション操作からデザイン制作全般を行う過程を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

PCでIllustratorとPhotoshopを使えるスキルの習得をして、CDジャケットやパンフレット制作に役立つ人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① Photoshop 基礎 1（アプリケーションについて／基本操作／色調補正）
- ② Photoshop 基礎 2（選択範囲の作り方）
- ③ Photoshop 基礎 3（レイヤーの基本操作）
- ④ Photoshop 基礎 4（色の設定とペイント機能／画像修正）
- ⑤ Photoshop 基礎 5（フィルター活用／文字、パス、シェイプ）
- ⑥ 中間課題 作品制作（課題：グリーティングカード（仮）の制作・完成・提出）
- ⑦ クォーター末課題 作品制作（課題：広告（仮）の制作・完成・提出）

#### 中間試験評価方法・評価基準

課題制作時のアプリケーションを使用する積極的な姿勢や理解度・応用力、作品の表現力

や完成度などを総合的に評価します。出席率や授業態度も評価に含まれます。

平常点 15%、授業態度 10%、中間課題・クォーター末課題 75%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Illustrator と Photoshop の連携（2つを連携するデータ制作について）
- ⑨ 中間課題 1 制作（課題：文字や画像の基本レイアウト 制作・完成・提出）
- ⑩ 中間課題 2 作品制作（1）（課題：CD ジャケット一式 アートワーク一式の制作）
- ⑪ 中間課題 2 作品制作（2）（課題：CD ジャケット一式 アートワーク一式の制作継続）
- ⑫ 中間課題 2 作品制作（3）（課題：CD ジャケット一式 アートワーク一式の制作・完成・提出）
- ⑬ クォーター末課題 作品制作（1）（課題：パンフレット（仮）の制作）
- ⑭ クォーター末課題 作品制作（2）（課題：パンフレット（仮）の制作継続）
- ⑮ クォーター末課題 作品制作（3）（課題：パンフレット（仮）の制作・完成・提出）

#### 期末試験評価方法・評価基準

課題制作時のアプリケーションを使用する積極的な姿勢や理解度・応用力、作品の表現力や完成度などを総合的に評価します。出席率や授業態度も評価に含まれます。

学期末の評価は3クォーターと4クォーターの平均点とします。

クォーター4：平常点 10%、授業態度 5%、中間課題・学期末課題 85%

#### 特記事項

演習や課題提出が多くなるため、授業時間や教室の有効活用が重要です。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プレゼンテーション I
担当講師名	クラス担任
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

クラス担任の実務に従います。

#### 授業内容

この科目はビジネスパーソンとしての基本姿勢を学び社会人として必要な能力の獲得を目的とする演習形式の授業です。自己分析を行い、相互理解を行いながらプレゼンテーションやコミュニケーションを学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己理解と相互理解のできた、バランスよく周囲に対応できる自分を持つ人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目説明・社会に出るための準備とは
- ② 自分をプレゼンする・新人自己紹介
- ③ プレゼンを聞き手として受け止める
- ④ 自分のプレゼンがどうだったか・自己理解の度合い
- ⑤ 他者のプレゼンがどうだったか・他者理解の方法
- ⑥ プレゼンをしあうことで理解を深める・相互理解とコミュニケーション
- ⑦ 自己理解と自己分析を深めるレポート

#### 中間試験評価方法・評価基準

自分を理解し、自分を語ることを理解できているか、毎回の授業内課題で評価します。  
平常点 20% 授業態度 50% レポート 30%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーションとは何かを考える
- ⑨ 自分の考えを伝えること・グループワークについて
- ⑩ お題についてグループでセッションを試してみる
- ⑪ 別のお題について別のグループでセッションしてみる
- ⑫ コミュニケーションの効果とグループワークの効果を深める
- ⑬ 相互理解をしながら共通のテーマを探り、絞り込む
- ⑭ やりたいことを企画としてまとめていく
- ⑮ 個人・グループの企画書を作る

#### 期末試験評価方法・評価基準

グループワークにおいて、コミュニケーションを理解できているかを毎回の授業内課題で評価します。

平常点 20% 授業態度 50% 企画書 30%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	クラス担任
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

クラス担任の実務に従います。

#### 授業内容

この科目はビジネスパーソンとしての基本姿勢を学び社会人として必要な能力の獲得を目的とする演習形式の授業です。相互理解のもとにグループで企画を立案、その外部へのアプローチやプレゼンテーションツール作成を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己理解と相互理解のできた、バランスよく周囲に対応できる自分を持つ人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 2クォーター末の企画書を達成するために人材を選ぶ
- ② グループの中で企画達成の役割を作る
- ③ 企画に対して達成できるかをグループで精査する
- ④ 企画を学科にプレゼンする準備を始める・企画書作成1
- ⑤ 企画を学科にプレゼンする準備を始める・企画書作成2
- ⑥ 企画を授業の中でプレゼンし、反応を確認する
- ⑦ 企画の微調整をして、企画書を完成させ提出する

#### 中間試験評価方法・評価基準

グループ内での協力体制がとれ、グループメンバー全員がそれぞれの役割の中で力を出す事ができているか、課題（企画書）により評価  
平常点 50% 授業態度 20% 企画書 30%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 企画実施に向けて、マーケットと照らし合わせる
- ⑨ 業界分析を行い、企画の有効性を照らし合わせる
- ⑩ 企画実現に向けて、外部プレゼンのアポイントとネゴシエーション
- ⑪ 企画実現に向けて、プレゼンテーションツールの整備
- ⑫ プレゼンテーションのリハーサルとダメ出し
- ⑬ 授業内でプレゼンを行い、反応を見る
- ⑭ 企画書の最終形を提出、実行か見送りかを評価
- ⑮ 試験：自己理解・相互理解・企画作成と整備

#### 期末試験評価方法・評価基準

プレゼンテーションに至る過程を最終的なプレゼンテーションツール（企画書等）でグループ内全員が最後まで協力できたかを判断すると共に、平常点（出席・授業内課題等）で評価。  
平常点 50% 授業態度 20% プレゼンテーションツール 30%

#### 特記事項

秋学期ではプレゼンテーションソフトを使用します。

S 学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	音楽情報研究
担当講師名	渡辺 博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社2社(ポニーキャニオン、バップ)で30年以上制作ディレクターとして多数のアーティストを担当し、音楽制作部長として管理職を務めた実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は1年次共通科目に関連し、音楽業界のヒットチャートに基づいて音楽全般を分析する能力獲得を目的とする講義形式の授業です。直近のマーケットを分析し、その時の音楽や風潮・流行を理解して、細かい業界状況の情報取得を学修します。

#### 到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

最新の音楽チャートから売れる音楽を読み、企画・プレゼンできる人材

#### 授業計画 (1回目から7回目)

- ① オリエンテーションと学生の自己紹介
- ② 今週のチャートから、音楽業界の仕組みと関連図を解説
- ③ 今週のチャートから、音楽業界の職種を細かく分析してみる
- ④ 今週のチャートから、チャートから見える音楽業界を読み解く①
- ⑤ 今週のチャートから、チャートから見える音楽業界を読み解く②
- ⑥ 今週のチャートから、チャートから見える音楽業界を読み解く③
- ⑦ テスト (筆記試験)

#### 中間試験評価方法・評価基準

毎授業の最初にプレゼンテーション力育成のため、ひとりずつ楽曲を紹介してもらいます

が、その取り組み態度も 2Q 末に成績判断のひとつとします。

欠席一回につき全体からマイナス 3 点。

平常点 15%、授業態度 15%、試験 70%

#### 授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ 今週のチャートから、新号のトピックスをいくつか取り上げて解説する①
- ⑨ 今週のチャートから、新号のトピックスをいくつか取り上げて解説する②
- ⑩ 今週のチャートから、新号のトピックスをいくつか取り上げて解説する③
- ⑪ 今週のチャートから、チャートインするアーティスト、楽曲、そのプロモーション戦略などを考える①
- ⑫ 今週のチャートから、チャートインするアーティスト、楽曲、そのプロモーション戦略などを考える②
- ⑬ 今週のチャートから、チャートインするアーティスト、楽曲、そのプロモーション戦略などを考える③
- ⑭ 今週のチャートから、チャートインするアーティスト、楽曲、そのプロモーション戦略などを考える④
- ⑮ テスト (筆記試験)

#### 期末試験評価方法・評価基準

毎授業の最初にプレゼンテーション力育成のため、ひとりずつ楽曲を紹介してもらいますが、その取り組み態度を 2Q 末の成績判断のひとつにします。欠席一回につき全体からマイナス 3 点。

平常点 15%、授業態度 15%、プレゼンテーション力 20%、試験 50%

#### 特記事項

春学期のみの授業実施です。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	音楽ジャンル研究
担当講師名	広瀬倫子
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は某大手化学メーカーに入社、クリエイターとして独立後、音楽業界にて多岐にわたる音楽ジャンルを経験し現在も活動継続中。その活動歴や経験を科目に生かします。

#### 授業内容

ジャンルごとに作品を選びルーツを追跡。“日本が世界に誇る独自の音楽ジャンルと文化”に関する歴史の変遷の理解を深め、最新ヒットまでを学修します。3 クォーターでは概略で学ぶ音楽文化・ジャンルの発生や歴史を、4 クォーターでは最新のチャート作品を追跡・分析して学ぶ音楽ジャンルを解説します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヒット作品、それを生んだアーティストが受けた影響を音楽ジャンルの時代ごとに的確に追跡・分析し、ビジネスの場で適宜対応・提案ができる人材。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① <世界各国の音楽文化> 1 あらゆる国と地域の音楽を一通り知る
- ② <世界各国の音楽文化> 2 洋楽 vs 邦楽 ヒストリー
- ③ 大衆ヒットを生む「踊れる」音楽 VS 「踊らせない」 “絶対音楽”（純音楽）というジャンル
- ④ 音楽と文学、音楽と踊り、そこから歌やダンス・ミュージックが生まれる
- ⑤ <日本独自の音楽文化> 民謡、演歌、歌謡曲から、邦楽の歴史を知る
- ⑥ <洋楽ジャンルの和製化> J-〇〇というジャンル、逆輸入のK-POP、C-POP 他  
～POPS と J-POP、ROCK と J-ROCK 等～
- ⑦ テスト※

#### 中間試験評価方法・評価基準

平常点・授業態度 60%、試験 40%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ <日本独自の音楽ジャンル> 1 クラシックとジャズ、日本独自の発展を遂げた「吹奏楽」というジャンル
- ⑨ <日本独自の音楽ジャンル> 2 「秋本康」から学ぶアイドルソングというジャンル
- ⑩ <日本独自の音楽ジャンル> 3 僕らのゲーム音楽史～すべてはファミコンから始まった
- ⑪ <日本独自の音楽ジャンル> 4 世界から見た「アニソン」という音楽ジャンルの魅力
- ⑫ 「ディズニー音楽」から見る洋楽と邦楽の流れ
- ⑬ チャートインするアーティスト・楽曲をジャンル別に考える
- ⑭ チャートインするアーティスト・楽曲をジャンル別に考える
- ⑮ テスト※

#### 期末試験評価方法・評価基準

平常点・授業態度 60%、試験 40%

#### 特記事項

※テストには、音源素材から時代やジャンルを聴き分ける「音楽ジャンル」リスニング・テスト等が含まれます。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	音楽著作権 I
担当講師名	加藤邦明
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

音楽著作権管理団体やテレビ局系音楽出版社、芸能プロダクションにて音楽著作権関連業務に 20 年間従事。現在は、株式会社オフィス・トゥー・ワンにて音楽著作権のライセンス業務及び作曲家のマネジメントを行う。

#### 授業内容

この科目は音楽業界にも必要な「著作権」を学び、著作権の考え方と著作物の扱い方の理解を目的とする講義形式の授業です。テキストを通して、著作権ビジネス・音楽著作権の基礎知識を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権で人と物を保護して、侵害やトラブルを防ぐことができる人材

#### 授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 著作権物の定義、著作財産権 1
- ② 著作財産権 2
- ③ 著作者人格権
- ④ 著作隣接権
- ⑤ 著作権の保護期間
- ⑥ 権利侵害、権利制限
- ⑦ 復習

#### 中間試験評価方法・評価基準

著作権法全体の理解が出来ているか。

平常点 50%、授業態度 50%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 音楽産業の基本構造について
- ⑨ レコード会社の仕事 1
- ⑩ レコード会社の仕事 2
- ⑪ プロダクションの仕事
- ⑫ 著作権管理団体の仕事 1
- ⑬ 著作権管理団体の仕事 2
- ⑭ 復習
- ⑮ テスト (著作権及び著作権ビジネスについての筆記試験)

期末試験評価方法・評価基準

著作権法全体の理解が出来ているか。

音楽著作権ビジネスの基本を理解できているか。

平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	音楽著作権Ⅱ
担当講師名	加藤邦明
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

音楽著作権管理団体やテレビ局系音楽出版社、芸能プロダクションにて音楽著作権関連業務に20年間従事。現在は、株式会社オフィス・トゥー・ワンにて音楽著作権のライセンス業務及び作曲家のマネジメントを行う。

#### 授業内容

この科目は、前期に学んだ著作権法の知識を使い、音楽業界全体の権利ビジネスの構造を学ぶ講義形式の授業です。テキストを通して、著作権ビジネスの基礎知識を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権で人と物を保護して、侵害やトラブルを防ぐことができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽出版社の仕事1
- ② 音楽出版社の仕事2
- ③ 音楽出版社の仕事3
- ④ 人格権、編曲権について
- ⑤ PD (public domain) について
- ⑥ 団体名義の著作権について
- ⑦ 復習

#### 中間試験評価方法・評価基準

法律面での著作権を細分化したところまで理解できているか  
平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 海外との関係 1
- ⑨ 海外との関係 2
- ⑩ 海外との関係 3
- ⑪ 放送と著作権
- ⑫ CMと著作権
- ⑬ 復習
- ⑭ テスト
- ⑮ テストの解説

期末試験評価方法・評価基準

現実的に発生する著作権使用での注意点が理解できているか  
平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	コンサート PA
担当講師名	細渕純平
学期	受講学期指定
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は吉祥寺のライブハウス「SHUFFLE」でPAを担当しているエキスパート。  
1年間をかけて現場の知識と技術を伝授していきます。

#### 授業内容

この科目は、ミュージックビジネスの世界で働く者として必要な音響知識を学び、演奏機材や音響システムの基礎的な操作の理解を目的とする演習形式の授業です。ライブハウスを模した教室で実際に機材に触れながら体験的に音響の基礎を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音響機器の取り扱いを習得し、ライブや販売促進イベント等で音響機材を扱う事ができる。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション ステージワークの基本用語
- ② 楽器機材の名称と役割 楽器機材のセッティング
- ③ 音響機材の名称と役割 PAシステムの理解
- ④ セッティング表の作り方
- ⑤ マイクスタンドのセッティング
- ⑥ 基本的なPAシステムの実習
- ⑦ Q末試験（筆記・実技）

#### 中間試験評価方法・評価基準

音響機材や音響用語を初歩的な知識として学べているか。  
試験と平常点（出席・授業内の小テスト等）で評価

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ CD のオペレーション演習
- ⑨ Vo+オケのオペレーション実習 1
- ⑩ モニタースピーカーの役割
- ⑪ エフェクターの理解（リバーブ・ディレイ・EQ・コンプレッサー等）
- ⑫ Vo+オケのオペレーション実習 2
- ⑬ 楽器の PA オペレーション
- ⑭ 総合実習
- ⑮ 期末試験（実技）

期末試験評価方法・評価基準

体験的に音響機材と触れ、稼働させることが出来ているか。

実技試験（音響システムのセッティングとオペレーション）と平常点（出席等）で評価

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	音楽番組制作
担当講師名	佐伯 進
学期	受講学期指定
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界誌記者を経て構成作家・ラジオDJになり、地元関西で番組を持ち、「オールナイトニッポン」をはじめNACK5、FM名古屋、FM富士、レディオベリーなどで活躍。

#### 授業内容

この科目は1年次共通科目に関連し、「放送」を理解しながらラジオ番組の企画・構成・演出できる技術の習得を目的とする演習形式の授業です。放送倫理や著作権をふまえ番組構成を行い、グループワークでラジオ番組制作を行います。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

放送（ラジオ）メディアの特質を理解してラジオ番組の企画・構成・演出が出来る人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 放送局の種類と聴視率
- ② 放送局の仕組（タダで聞ける放送 放送局の収益とは・・・）
- ③ ラジオ番組分析（実際に放送されているラジオ番組の構成を分析）
- ④ 放送と著作権（どうして自由にラジオで音楽を流せるのか？）
- ⑤ 放送倫理（制作者に求められる倫理感 放送禁止用語とは）
- ⑥ ラジオ番組企画
- ⑦ 試験（レポート試験）

#### 中間試験評価方法・評価基準

ラジオ番組に対する役割や特性などの理解度を中心に評価します。  
試験（レポート）と平常点（出席・授業内課題等）で評価

## 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 番組制作①（ラジオ番組の企画とは）
- ⑨ 番組制作②（番組企画書を考えるワークノート確認、企画書の作成）
- ⑩ 番組制作③（CUEシートとは？）
- ⑪ 番組制作④（基本的な収録機材の取り扱い、音響機器の取り扱い&チェック）
- ⑫ 番組制作⑤（番組企画書とCUEシートを作る）
- ⑬ 番組制作⑥（マイクテストなど録音を体験）
- ⑭ 番組制作⑦（BGMや選曲について）
- ⑮ 試験（筆記試験）

## 期末試験評価方法・評価基準

ラジオ局&制作現場等の仕組みや番組制作工程の理解度を確認するために課題として番組の制作を行う

試験（課題作品提出）と平常点（出席・授業内での課題等）で評価

## 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	発想法 I
担当講師名	河内山信一
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は大手広告代理店でのメディアを活用した広告企画からイベント運営などの実務経験、非営利分野で起業といった実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は音楽業界人として必要な「アイデアを発想する力」の企画化・具体化・見える化を目的とする演習形式の授業です。さまざまな発想法を体験的に学び、ターゲットやニーズに合わせた情報を吸収して企画にすることと発信するための知識を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今の世の中を読み取って発想し「勝てる」企画を出せる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 発想とは何かを考える
- ② 発想のための準備
- ③ アウトプットのためのインプット
- ④ アイデアを無秩序に出して、発想していくブレインストーミング
- ⑤ アイデアを書き、分類することによってアイデアを発想する KJ 法
- ⑥ アイデアが詰まるまで繰り返し発想するマンダラートなど
- ⑦ チェックリストを活用して、アイデアを強制的に促すオズボーンのチェックリスト法

#### 中間試験評価方法・評価基準

平常点（21%）＋インプット課題の提出（20%）＋発言点（＋ $\alpha$ ）

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ロジカルシンキングを理解し、実際に演習する（MECE）
- ⑨ 似た例を見つけて、それを元に発想する NM 法
- ⑩ 文章化することでアイデア発想していく PREP 法
- ⑪ 「マーケティングの4P」から発想する
- ⑫ ターゲットインサイトについて
- ⑬ 発想法（ゲスト枠1）
- ⑭ 発想法（ゲスト枠2）
- ⑮ 筆記試験（ルールを把握し、その中での勝ち筋を判断するテスト）

#### 期末試験評価方法・評価基準

1クォーター（41%）にプラスして、平常点（24%）＋インプット課題の提出（20%）＋期末テスト（15%）＋発言点（+ $\alpha$ ）

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	発想法Ⅱ
担当講師名	河内山信一
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は大手広告代理店でのメディアを活用した広告企画からイベント運営などの実務経験、非営利分野で起業といった実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は音楽業界人として必要な「アイデアを発想する力」の企画化・具体化・見える化を目的とする演習形式の授業です。さまざまな発想法を体験的に学び、ターゲットやニーズに合わせた情報を吸収して企画にすることと発信するための知識を学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今の世の中を読み取って発想し「勝てる」企画を出せる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽ビジネスのトレンド（リアル）を知り、考える
- ② 音楽ビジネスのトレンド（Web）を知り、考える
- ③ ビジネスにおけるターゲットについて想像する
- ④ 前回考えたターゲットのニーズとは何かを想像する
- ⑤ 前回考えたターゲットに対してのソリューションを創造する
- ⑥ 発想から発表へ、方法を学び、実践する
- ⑦ プロの発想法について知る（ゲスト導入）

#### 中間試験評価方法・評価基準

平常点（21%）＋インプット課題の提出（20%）＋発言点（＋ $\alpha$ ）

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発表の方法を学び、実践する
- ⑨ インプットとして音楽ビジネスのトレンドを知り、未来を発想する
- ⑩ ビジネスを見える化することで構造を知り、発想の基点にする
- ⑪ ビジネスを見える化することで構造を知り、実際の企業に当てはめて考える①
- ⑫ ビジネスを見える化することで構造を知り、実際の企業に当てはめて考える②
- ⑬ ビジネスを見える化することで構造を知り、発想の基点にする（ピクト図解）①
- ⑭ ビジネスを見える化することで構造を知り、発想の基点にする（ピクト図解）②
- ⑮ 期末テスト（総合的に発想力を試す）

#### 期末試験評価方法・評価基準

1クォーター（41％）にプラスして、平常点（24％）＋インプット課題の提出（20％）＋期末テスト（15％）＋発言点（ $\alpha$ ）

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	レコード会社研究Ⅰ
担当講師名	氏家滉一
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界においてポニーキャニオン、エクスタシージャパンなどのメジャーレーベルにおける制作業務、インディーズレーベル起業実績などの実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスを支えてきた「レコード会社」に注目して、音楽の歴史、音楽業界の歴史とともに音楽ビジネスの研究を目的とする講義形式の授業です。春学期では歴史上レコード会社の歴代のレーベル特色を作り上げた多数の名物経営者、プロデューサーにスポットを当てた「レコード会社 キレッキレ人物伝」も織り込み、より関わる人の体温を感じる形で歴史を学びつつ、これからの音楽業界の変化やヒットに基づいた音楽シーンなどを海外も含めた知識として学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコード会社を軸にした音楽業界の現場で、プロデューサー、ディレクター、アーティスト等共通の会話ができ、情報を理解しあえる歴史や専門用語の知識を備えた人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション
- ② レコード会社とは何をする会社？
- ③ 日本のレコード会社の現状
- ④ 日本のレコード会社について1
- ⑤ 日本のレコード会社について2
- ⑥ 日本のレコード会社について3
- ⑦ ※レコード業界の生の声を聴けるゲストをお呼びします
- ⑧ 1クォーター末レポート

#### 中間試験評価方法・評価基準

初めて触れるレコード業界に関して自発的にアイデアを創出する姿勢があるか。  
平常点 50%、授業態度 25%、レポート点 25%

#### 授業計画 (8回目から15回目)

- ① 日本のレコード会社について 4
- ② 日本のレコード業界の歴史 1 (レコードの発明から戦前まで)
- ③ 日本のレコード業界の歴史 2 (終戦後から 1960 年代まで)
- ④ 日本のレコード業界の歴史 3 (アメリカ、イギリスのロックの影響を受けた 1950 年代～60 年代)
- ⑤ 日本のレコード業界の歴史 4 (時代を彩った作家たち)
- ⑥ 日本のレコード業界の歴史 5 (フォーク、ロックの誕生)
- ⑦ 日本のレコード業界の歴史 6 (音楽業界とマスメディアの関係の変化)
- ⑧ 春学期末試験 (記述式による試験)

#### 期末試験評価方法・評価基準

日本のレコード会社についてと歴史についての基礎知識が得られたか。

平常点 50% 授業態度 25% レポート点 25%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	レコード会社研究Ⅱ
担当講師名	氏家滉一
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界においてポニーキャニオン、エクスタシージャパンなどのメジャーレーベルにおける制作業務、インディーズレーベル起業実績などの実務経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスを支えてきた「レコード会社」に注目して、音楽の歴史とともに音楽ビジネスの研究を目的とする講義形式の授業です。音楽業界の変化やヒットに基づいた音楽シーンなどを海外も含めた知識として学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコード会社とレコード業界のことは何でも知っておりその音楽業界における位置づけがわかっている人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 日本のレコード業界の歴史 7 (CDの登場～音楽メディアの変化)
- ② 日本のレコード業界の歴史 8 (メガヒット前夜～80年代の音楽状況)
- ③ 日本のレコード業界の歴史 9 (90年代～CDバブルの時代 1)
- ④ 日本のレコード業界の歴史 10 (90年代～CDバブルの時代 2)
- ⑤ 日本のレコード業界の歴史 11 (90年代、ミリオンセラー時代になった理由 1)
- ⑥ 日本のレコード業界の歴史 12 (90年代、ミリオンセラー時代になった理由 2)
- ⑦ 3クォーター末試験（記述式による試験）

#### 中間試験評価方法・評価基準

ミリオンセラー時代にいたる音楽業界の歴史を知識として定着させているか。

平常点 50% 授業態度 25% レポート点 25%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 日本のレコード業界の歴史 13 (90年代日本の音楽プロデューサー時代)
- ⑨ 日本のレコード業界の歴史 14 (90年代スーパーメガヒットの誕生)

- ⑩ 日本のレコード業界の歴史 15 (90年代もう一つのジャンル)
- ⑪ 日本のレコード業界の歴史 16 (2000年代の音楽状況)
- ⑫ アーティストに関わる契約とは？
- ⑬ これからの音楽業界を占うキーワードは？
- ⑭ グループディスカッション「これからの音楽業界はどうなっていくのか？」
- ⑮ 学年末試験 (記述式による試験)

期末試験評価方法・評価基準
---------------

レコード業界の歴史を踏まえて、お金の流れなど俯瞰でとらえることができているか。

また、その知識をもとに音楽業界の未来を考える思考能力がついたか。

平常点 50% 授業態度 25% レポート点 25%

特記事項
------

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プロダクションビジネス I
担当講師名	今井 良
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャープロダクションのアップフロントエージェンシーやオフィスオーガスタのアーティストマネージメントなどを歴任し音楽ビジネスを実践してきました。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスの核になる「マネージメント」に注目して、プロダクション業務や人材開発などの実務の知識獲得を目的とする実習形式の授業です。アーティストを支えるマネージャーとして収益・印税・育成などの知識と現場における仕事内容などを学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

敏腕マネージャーとして、育てた新人を業界に売り込むことができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽業界概要イントロダクション
- ② 音楽業界のスキーム①（音楽業界全体の概要、レコード会社、プロダクション）
- ③ 音楽業界のスキーム②（イベンター、音楽出版社、その他）
- ④ 音楽業界のスキーム③（プロダクションの仕事概要）
- ⑤ 音楽業界のスキーム④（アーティストやプロダクションの収益構造 1）
- ⑥ 音楽業界のスキーム⑤（アーティストやプロダクションの収益構造 2）
- ⑦ 1クォーター末 テスト（音楽業界のビジネス的理解）

#### 中間試験評価方法・評価基準

音楽業界のビジネスを理解し、具体的な計算作業が出来る人を評価します。

平常点 20% 授業態度 20% 筆記試験 60%

#### 授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 1クォーター 復習 (1クォーターテストの解説)
- ⑨ マネージャーの仕事① (スケジューリング:音源制作、ライブ、プロモーション…)
- ⑩ マネージャーの仕事② (プロモーション: 宣伝、販売促進)
- ⑪ マネージャーの仕事③ (制作:音源制作、ビジュアルワーク制作)
- ⑫ マネージャーの仕事④ (自由な発想: 音楽の種類)
- ⑬ 音楽ビジネスの未来 (音楽ビジネス構造の変化とその将来)
- ⑭ 2クォーターまとめ (印税計算の復習)
- ⑮ 2クォーター末 テスト (マネジメントビジネス的理解)

#### 期末試験評価方法・評価基準

プロダクションビジネスを理解し、具体的な計算作業ができる人を評価します。

平常点 20% 授業態度 20% 筆記試験 60%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プロダクションビジネスⅡ
担当講師名	今井 良
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャープロダクションのアップフロントエージェンシーやオフィスオーガスタのアーティストマネジメントなどを歴任し音楽ビジネスを実践してきました。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスの核になる「マネジメント」に注目して、プロダクション業務や人材開発などの実務の知識獲得を目的とする実習形式の授業です。アーティストを支えるマネージャーとして収益・印税・育成などの知識と現場における仕事内容などを学修します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

敏腕マネージャーとして、育てた新人を業界に売り込むことができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 2クォーター復習（2クォーター末テストの解説）
- ② 新人発掘①（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ③ 新人発掘②（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ④ 新人発掘③（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑤ 新人発掘④（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑥ 3クォーターまとめ（プレゼンテーションのまとめ）
- ⑦ 3クォーター末テスト（音楽業界のビジネス的理解とプランニング）

#### 中間試験評価方法・評価基準

クリエイティブな現場でアイデアを発想できる人を評価します。

平常点 20% 授業態度 20% 筆記試験 60%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3クォーター復習（3クォーター末テストの解説）
- ⑨ 新人発掘⑤（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑩ 新人発掘⑥（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑪ 新人発掘⑦（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑫ 新人発掘⑧（具体的な新人発掘プレゼンテーション）
- ⑬ 4クォーターまとめ（マネジメントのまとめ）
- ⑭ 1年間のまとめ（音楽業界の現状のまとめとその未来像）
- ⑮ 4クォーター末テスト（1年間の学習した内容の総合的な理解）

#### 期末試験評価方法・評価基準

具体的な業界全体の知識を持ち、なおかつ将来を切り開く発想力を持った人を評価します。

平常点 20% 授業態度 20% 筆記試験 60%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	コンサートビジネス I
担当講師名	西嶋章行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はイベントプロモーター「ディスクガレージ」で多くのイベントにかかわるエキスパート、1年間をかけて現場の知識と技術を伝授していきます。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスの核となる「ライブやコンサート」を作り、運営する技術獲得を目的とする演習形式の授業です。コンセプトから企画プレゼン・ブッキング・ライブ運営・プロモーションなど幅広く体験的に学修していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

効率的なライブ企画を作り、赤字を出さずにスムーズに実行・運営できる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション・ライブ知識の確認
- ② ライブとイベントの違い
- ③ 音楽イベントを研究
- ④ イベントでの役割と仕事
- ⑤ 企画書とは
- ⑥ ライブ企画を班別に立案
- ⑦ ライブ企画内容を検討

#### 中間試験評価方法・評価基準

参加意識と授業態度、協調性を重視します。

平常点 50% 授業態度 50%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ライブ企画プレゼン1(チームごとに企画をプレゼンテーション)
- ⑨ ライブ企画プレゼン2（プレゼンを受けて質問や疑問点を企画者に問う）
- ⑩ ライブ企画プレゼン3（幾つかの企画の中から実現性のある企画イベントを決定）
- ⑪ ライブ企画の実務作業1（企画概要書の作成、出演者への交渉、会場との打合せ）
- ⑫ ライブ企画の実務作業2（実施企画会議、スタッフ編成）
- ⑬ ライブ企画の実務作業3（実施企画会議、宣伝プラン作成）
- ⑭ ライブ企画の実務作業4（実施企画会議、集客プラン作成）
- ⑮ 筆記試験（出演交渉用の文書を作成する）

#### 期末試験評価方法・評価基準

参加意識と授業態度、協調性を重視します

平常点 50% 授業態度 50%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	コンサートビジネスⅡ
担当講師名	西嶋章行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はイベントプロモーター「ディスクガレージ」で多くのイベントにかかわるエキスパート、1年間をかけて現場の知識と技術を伝授していきます。

#### 授業内容

この科目は音楽ビジネスの核となる「ライブやコンサート」を作り、運営する技術獲得を目的とする演習形式の授業です。コンセプトから企画プレゼン・ブッキング・ライブ運営・プロモーションなど幅広く体験的に学修していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

効率的なライブ企画を作り、赤字を出さずにスムーズに実行・運営できる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① イベントライブ実施後の反省会
- ② 次回へ向けてライブ企画立案1
- ③ 次回へ向けてライブ企画立案2
- ④ 企画班の立ち上げ
- ⑤ ライブ企画書の作成
- ⑥ ライブ企画決定
- ⑦ ライブ企画概要の作成

#### 中間試験評価方法・評価基準

参加意識と授業態度、協調性・役割担当の成果を重視します  
 平常点 50% 授業態度 50%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スタッフ編成・役割分担決定
- ⑨ 出演打診書の作成と出演交渉開始
- ⑩ 売上の設定と出演条件の設定
- ⑪ 宣伝プランと宣伝用デザイン作成
- ⑫ 動員対策・学内プレゼン
- ⑬ 宣伝会議・Web とフライヤーを使った宣伝プラン作成
- ⑭ ライブ当日のシミュレーションと各仕事の役割確認
- ⑮ 筆記試験（設定された条件によるオリジナルイベントの立案）

#### 期末試験評価方法・評価基準

参加意識と授業態度、協調性を重視します

平常点 50% 授業態度 25% 試験 25%

#### 特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライティングスキル I
担当講師名	伊藤 緑
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は企業での人事部・広報部での対外的交渉の実務経験を持ち、また作詞家・音楽ライターまた、ビジネスライターとしての執筆経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は社会人としての基礎的なマナーと文書作成術獲得を目的とする演習形式の授業です。コンピューターを使って、メールの送受信や敬語の使い方・自分の言葉で文章を作成する知識を幅広く体験的に学修していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

すぐに業界で「デスク」の仕事ができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① この講義で行うことと、1年後自身がどうなっていたいかをイメージする
- ② 音楽業界でのスタッフとしての仕事について
- ③ ビジネスメールの書き方1（PCでメールのやり取りを学ぶ）
- ④ ビジネスメールの書き方2（メール送信の際の言葉や機能を学ぶ）
- ⑤ ビジネス文書を書く際の言葉の使い方やルール
- ⑥ 文書作成（自分が好きなアーティストの魅力を客観的に書く）
- ⑦ 確認テスト（ビジネスメールや文章についての確認）

#### 中間試験評価方法・評価基準

文章の最低限のルールを学び、自由に文章を書くことができるか。  
PCによるメールの送受信ができるか。

平常点 50%、授業態度 25% テスト 25%

授業計画 (8回目から15回目)

- ① 敬語の基本
- ② 敬語の種類を知る
- ③ テキストを使って尊敬語を徹底的に学ぶ
- ④ テキストを使って謙讓語を徹底的に学ぶ
- ⑤ テキストを使って丁寧語を徹底的に学ぶ
- ⑥ 敬語の復習
- ⑦ 敬語を使った文章作成
- ⑧ 確認テスト (敬語が身についているか)

期末試験評価方法・評価基準

敬語を使ったビジネス文書が書けるか、実際に外部の人とのメールのやり取りが出来るか。  
平常点 40%、授業態度 25% 試験 35%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライティングスキルⅡ
担当講師名	伊藤 緑
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は企業での人事部・広報部での対外的交渉の実務経験を持ち、また作詞家・音楽ライターとしての執筆経験を持ちます。

#### 授業内容

この科目は社会人としての基礎的なマナーと文書作成術獲得を目的とする演習形式の授業です。コンピューターを使って、メールの送受信や敬語の使い方・自分の言葉で文章を作成する知識を幅広く体験的に学修していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

すぐに業界で「デスク」の仕事ができる人材

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 文章を書くための表現方法1（読まれるための文章を書く）
- ② 文章を書くための表現方法2（読み手に応じて、文章を書き分ける）
- ③ 文章を書くための表現方法3（SNSを含め、発信する文章）
- ④ 文章を書くための表現方法3（文字数制限のあるなかでの執筆）
- ⑤ 音楽界を知るための映像（スタッフという目線でアーティストを見る）
- ⑥ 映像の感想文を書く。
- ⑦ 確認テスト（文章を書くためのルールを確認）

#### 中間試験評価方法・評価基準

文章を書くことに対する抵抗感がなく、合わせてブログやSNSに書く文章についてスキル獲得が出来ているか。

平常点 50%、授業態度 25% テスト 25%

#### 授業計画 (8回目から15回目)

- ① CD レビューの書き方を学びます。自分が好きなアーティストの CD レビュー。
- ② 書いたレビューを一人ずつチェックします。その 1
- ③ 書いたレビューを一人ずつチェックします。その 2
- ④ 書いたレビューを一人ずつチェックします。その 3
- ⑤ 完成したレビュー文をブログにアップする。
- ⑥ ファン目線ではなくスタッフ目線で書くことを再度確認する。
- ⑦ 本の 1 章分から感想を書く (この感想をテストとし、文章のスキル、考え方を確認)
- ⑧ 前回の感想文の振り返り (文章と考え方について、解説)

#### 期末試験評価方法・評価基準

映像や文章を観たり読んだりした感想を書くこと、ビジネス文書を書くこと、客観的にレビューを書くことの違いが理解できているか。

平常点 40%、授業態度 25% 文書作成 35%

#### 特記事項